

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝



「小学校入学まで身に付けたい10の力」

1 規則正しい生活リズム

バランスの摂れた食事、適度な運動、トイレの習慣、挨拶や返事、身だしなみを整えることを習慣化する。そのためには、親が率先して生活リズムを整えることが大切となる。朝決まった時間に起きることで、寝る時刻は自然と早くなる。



2 素直な心

指導者や親の言ったことを素直に聴き入れる子どもは、何事においても伸びていく。幼い頃から「はい」と返事をする習慣を付ける。社会人になって成功する、幸せになるための最大の武器は「素直さ」である。素直な人はみんなから好かれる。

3 聞く力

生きる力の基本、学習の基礎となる。新しい知識や情報を吸収するだけでなく、人への思いやりにも通ずる。簡単なクイズやなぞなぞを聞いて答えたり、読み聞かせを通して話の内容や登場人物の心情を理解したりすることを重ねて、楽しく「聞く力」を育む。

4 見る力

人は外界から得る全情報の80%を目が担っていると言われていいる。生活場面で何が生じているのか状況判断したり、相手の表情から気持ちを読み取って行動したりする力となる。物の形を変えても本質が見えているか、しっかり丁寧に観察する。

5 考える力

指示待ちではなく、自ら考える力が大切である。遊びの状況に応じて、子どもたちがルールを相談して工夫する。また、「赤信号はどうするんだっけ?」「カレーにはどんな野菜が入っている?」と質問して、思考の芽生えを促す。



6 巧緻性（手先の器用さ）

折り紙やクレヨンを使う遊びはもちろん、ペットボトルの口からドングリやビー玉を入れる、ヒモ通しをするなど、好きな遊びの中で高めていく。また、ハサミやセロハンテープ等の道具を使った制作活動に取り組み、左右の手の動かし方や微妙な力加減を教える。

7 がまんする力

社会に出るとルールを守ることが基本となる。それには、がまんする力が必要となる。ブランコや滑り台等の順番を待つことから始める。勝ち負けにこだわり、泣く子どもには、負けても泣かない、友達を応援するなど、「勝つことが全てではない」価値観を教える。

8 協力する気持ち

今は「チーム力」が重要視されている。友達と力を合わせて何かを作って遊んだり、家族で話し合っ、物事を決めるなどの習慣を付ける。友達とペアになり息を合わせた遊びや集団で協力しながら行うゲームを取り入れて、みんなと協力する心地よさを経験する。

9 感動する心（子どもは感動した数だけ幸せになれる!）

感動する心が、「知りたい、学びたい」という気持ちにつながり、行動の原動力にもなる。風に揺れる木々の葉、雪がしんと降る様子、きれいな虹、飛んでいる飛行機等、様々な物・ことに、子どもと一緒に感動し、その素晴らしさに気付かせる。

10 向上する意欲

いろいろな力を高めていくためには、自分自身を向上させたいという意欲が大切である。「もっと知りたい、もっと上手になりたい」という気持ちは、できることから挑戦し、「分かった、できた」という達成感をもたせることが鍵を握る。根拠のない自信をもたせよう。



とれたて直送便



～子どものペースから大人のペースへ～

ある小学校で子どもがクールダウンをする際、担任にその旨を伝える場面があった。「～したいです」「～やりたくないです」と言語化させてから、「どうぞ」と許可をする。「これだけ頑張ろう」と条件を与えて許可をする。子どもが決定権を誤解しない指導を心掛ける。